

# 仙台二中 防災だより

第3号

令和5年度 第3号  
令和5年6月9日発行

発行者 防災主任

## 宮城県沖地震から45年

今から45年前の1978年6月12日(月)17時14分頃にマグニチュード7.4、震度5の宮城県沖地震が発生しました。

この地震の特徴として、①ブロック塀の倒壊が多発し、仙台市内で11人が犠牲となったこと。②屋外への急な飛び出しによる負傷者、ガラス片や落下物による負傷者が目立ったこと。③地盤条件などにより地域によって被害が大きく影響し、市東部の卸町団地では建物が大きく壊れたり、丘陵部の団地では大きながけ崩れが発生したりしたこと。④電気・ガス・水道などのライフラインが大きな被害を受け、市民生活に大きな影響を与え、特にガスは、復旧まで約1か月かかったこと。この地震のあとに震度の階級が見直されたり、ブロック塀の構造や高さが規制されたりしました。

45年前の宮城県沖地震の様子について伝え聞いた話を二つ紹介します。



(時事通信社ドットコム  
ニュース『【特集】  
日本の震災』より)

- 太白区のマンションの高層階に住んでいた方は、エレベーターが止まり、階段を登ることになりました。水も出ず、食料がなくなると購入するために階段を利用するしかないのでも大変だったそうです。
- 当日は市中総体の期間中で、評定河原球場では野球の試合が行われていました。地面が揺れ、グラウンドにしゃがんでいるとマンションから植木鉢やガラスが落ちてきてとても危険でした。試合は中止されて帰ることになったが、バスは来ない、保護者も自動車を動かすのも大変だったそうです。

## シェイクアウト訓練とは

今日はシェイクアウト訓練日です。シェイクアウト訓練は、2008年にアメリカ合衆国カリフォルニア州で始まった地震に備える一斉防災訓練です。仙台市は6月12日を「市民防災の日」として定め、この日にシェイクアウト訓練を実施するようになりました。本来であれば12日に行うところですが、今年度は中総体期間中にあたるため、本校では本日举行します。

地震発生時刻に緊急地震速報の音が鳴ったら、身を守るために、「**まず低く**」、「**頭を守り**」、「**動かない**」の三つの基本行動を行います。「まず低く」は地震の揺れに伴う転倒を防止して、激しい揺れに体を動かされないようにするためです。二つ目の「頭を守り」は机の下などに入り、落下物から大切な頭

部を守るということです。もしも机などの隠れる場所がない場合は、手や腕、カバンや本など、身近なものを使って頭を保護します。三つ目の「動かない」は地震で揺れている間に動くのは危険なので、揺れが収まるまで1分くらいはその場に留まり、動かないようにします。これらの基本行動を原則にして、状況に応じて、臨機応変に行動できるようにしましょう。



(図は日本シェイクアウト提唱会議 HP より)

## 宮城県沖地震の記憶

- 落ちた瓦でけがをして、頭から失血をしている人を見た(仙台市・70代男性・無職)
- 当時、小学1年生。揺れに立っていただけ、危険だと知らないまま、ブロック塀にしがみついた(仙台市・50代・主婦)
- 列車が止まり、ぐちゃぐちゃになった線路脇を歩いた(仙台市・50代女性・パート)
- 丸光デパートのガラスが割れ、光りながら降ってきた(仙台市・60代女性・無職)
- ペットの犬が心配で帰宅。倒れた三面鏡の椅子が入る部分にはまって助かっていた(仙台市・50代女性・パート)
- 中総体の日で、帰宅困難の中学生の情報がラジオから流れた(仙台市・60代女性・無職)
- 福島市で高校生だった。自宅の本棚が倒れて下敷きになった(茨城県・60代男性・公務員)
- 学校に勤務中。校長が津波を警戒、生徒を下校させなかった(石巻市・70代男性・無職)
- 停電し、星空は無情なまでの美しさだった(宮城県利府町・60代・主婦)
- 断水し風呂が使えず、もらい湯をした(仙台市・70代男性・無職)
- ガスが止まり、親が七輪で煮炊きした(仙台市・50代女性・アルバイト)

平成5年6月7日(水) 河北新報 朝刊24面より  
(「宮城県沖地震45年アンケート」)